

世界最古の「土器普及国日本」 「縄文土器文化は世界的に誇れる文化」

- 137億年前、宇宙は小さな「火の玉」から始まった。これが「ビッグ・バン」
- ガス状の原始太陽系星雲の中で固体粒子が集まって無数の微惑星となり、それらが合体と衝突を繰り返しながら原始地球となっていた。
- 46億年前、太陽(寿命は約100億年、地球直径の約109倍、体積は地球の約130万倍)とともに地球(太陽系)が誕生。
- 太陽は2000億個で構成される天の川銀河(10万光年の直系)の恒星のひとつ。
- 40億年前、地球上に生命の誕生(バクテリアなどの細胞)
- 27億年前頃、太陽の光を利用して酸素を作り出す微生物が海に出現、地球上に酸素を放出
- 1500万年前、プレートの沈み込みにによりアジア大陸から切り離され、そこに日本海が誕生。日本列島の原型ができた。
- 600万年前にアフリカで人類の誕生。人類の祖先はチンパンジーと別れ、20万年前、私たちの共通祖先はアフリカに誕生、世界に広がる。
- 4万年前頃、日本列島に我々の祖先が現れる。
- 今から約1~2万年前に、周りの海が沈んで朝鮮海峡や宗谷海峡ができ、ほぼ現在のような日本列島ができた。
- 今から約1万4000年前位の旧石器時代、日本全国に土器が普及していた。
- 日本は世界最古の土器(煮炊き用)普及国だった。

1万年頃前に始まった縄文時代(新石器時代)の前は旧石器時代という。旧石器時代の人々はあらゆる石器(打製石器)を使って狩りや漁をしたり、木の実をとったりして生活をしており、戦争のない平和な時代が長く続いていました。

日本では氷河期が終わりに近づいた1万6000年~1万5000年前、気温上昇に伴い、寒帯的な森林から落葉樹も混じる森林へと変化していきました。その結果、どんぐり、コナラ・樺・椎など固い果実類などの植物性の食料が入手しやすくなり、それらを食べるための、あく抜きに必要な容器として土器が生まれたのではないかと推測されています。

これらの土器は人類最古の技術(粘土を焼くと固くなる)の一つで、人間が作った「無から有」の代表です。

世界の四大文明発祥のはるか前に、シルクロードの国々や中国・朝鮮半島などのアジア大陸ではなく、極東の島国・日本全国に土器が普及していたのはどうしてなのでしょう？ 大変、興味のあるテーマです。

西アジアはパンの文化で小麦が主食、パンを焼くのに土器を作る必要がなかった・のではと考えられています。

人類最古の技術と言われる土器が普及していた日本ですが、その後、文明といえる段階にまで発展はしませんでした。

その土壌はあったということです。縄文土器文化は世界的に誇れる文化なのです。

中国湖南省で発見された土器は旧石器時代、約1万8000年前の世界で一番古い土器です。青森県大平山元(おおだいやまもと)遺跡の縄文土器は約1万6000年前のもの、またロシアのグロマトゥーハ遺跡では約1万5000年前の土器が発見されています。世界で一番古い旧石器時代の土器は、東アジア(中国、日本の数が多い)で多く発見されています。

世界四大文明の発祥地の西アジアや南アジア、アフリカで発見された土器は約9000年前のもので、

神への捧げもの、食べ物を盛り付けるためのもので煮炊きのために始まった日本の土器とは性格を異にしています。

世界の四大文明が誕生



5000年前頃(紀元前3000年)から、世界の四大文明が誕生(大河の流域に都市国家ができる)

人類は食物を求め移動をしながら狩りや魚をしたり、木の実や果物の採取を繰り返していた。次第に農耕と牧畜の技術を獲得し定住生活に移行していった。

■紀元前3000年頃からエジプト文明が始まった。ナイル川流域に強い権力に支えられた国家ができた。神聖文字・太陽暦紙(パピルス)を使用した。古代エジプト王国は2500年も繁栄し続けた。高度な学問が生まれ、教大な神権政治を支えた。王はファラオと呼ばれ、太陽神の化身として政治を行い、神官が支配階級を形成した。王の権力を象徴する巨大なピラミッドが次々と作られた。ギザの砂漠にある三大ピラミッドは隣接するスフィンクスとともに、エジプトを象徴するイメージとなっている。造営時期は現在より約4500年前の、紀元前2500年頃とされ、メンフィスとその墓地遺跡として世界遺産に登録されている。古代エジプト王国のファラオの墓陵であり、被葬者はクフ王、カフラー王、メンカウラー王とされる。クフ王のピラミッドが最大で、5トンの石が270万個積み上げられている。日が昇る方角であるナイル川の東岸には、ルクソール神殿など生を象徴する建物が、日が沈む方向のナイル川西岸には死を象徴する、王家の谷や王妃の谷などがある。王家の谷にはツタンカーメン王の墓がある。紀元前16~11世紀の新王国時代のもの。新王国時代、領土が最大になりアブシンベルには巨大神殿が残り観光地となっている。

■紀元前3000年ごろからティグリス・ユーフラティス川流域にシュメール人を中心としたメソポタミア文明が誕生。神殿を中心に大村落在り。銅と錫を混ぜてつくる青銅器を開発した。鑄造が容易で強固なもののができた。銅はイラン高原やオマーンから、錫はアフガニスタン西部から運ばれてきた。シュメール人は青銅器を武器に国家を統一、同時に青銅器文化を世界に広めた。くさび形文字、六十進法、青銅器を使用、バビロン王朝へと引き継がれる。

■紀元前2300年ごろ、インドのインダス川流域にインダス文明ができた。モヘンジョ ダロやハラッパーの遺跡から焼成煉瓦によって計画的に建設された都市が発見されている。インダス文字・印章・彩文文字を使う。

■紀元前2000年頃、黄河並びに長江を中心に都市が発達。広域的な殷王朝ができ、王が祭祀や占いによって国を統治。文字・高度に発達した青銅器を持つ。殷墟からは甲骨文字を刻んだ亀甲・獣骨・王墓・宮殿跡が発見されている。